

第7次留萌市総合計画策定市民会議（第2回市民会議）会議結果

1 日時

令和8年8月24日(月) 14時00分～15時30分

2 場所

1号会議室（留萌市役所1階）

3 出席者

(1) 市民会議委員

9名（谷座長、笠井副座長、新谷委員、大沼委員、鹿内委員、住吉委員、中出委員、山際委員、米倉委員）

（欠席）上野委員

※会議前に、公募により応募のあった住吉委員へ委嘱状を交付

(2) 報道機関

2社

(3) 事務局

3名（渡辺総務部長、林政策調整課長、山下政策調整課長補佐）

4 会議次第（要旨）

(1) 開会

（事務局）

定刻となりましたので、第2回留萌市総合計画策定市民会議を開催いたします。

先の会議でのご意見を踏まえ、8月13日から20日までの間、市民会議委員の再募集を行った結果、新たに1名にご応募をいただき、先ほど、市長室において委嘱状の交付を行ったところでございます。

住吉委員におかれましては、はじめての会議となりますので、自己紹介をお願いしたいと思います。

（住吉委員）

皆さんこんにちは。住吉智也と申します。本日委員を仰せつかりました。座長からのお声がけを受けまして微力ではありますが任期までの間、皆様とともに留萌市総合計画を一緒に作り上げていく仲間として本日より参加いたしますので、よろしくお願いいたします。



(事務局)

住吉委員、ありがとうございました。

事前に皆様へ参考資料についてはお送りさせていただいております。資料の内容は、前回の会議の振り返りが中心となりますので、本日は資料の構成についてのご説明とさせていただきます。

「参考資料1」は前回いただいたキーワード 57 件をグループ別に仮集計したものととなります。「参考資料2」は3名の委員からご提出いただいた10年後の留萌の姿について。そして、「参考資料3」は市民アンケート結果と市民会議での意見の重なりに関する資料。最後に「参考資料4」はビジョン検討の視点とこれまでの総合計画のビジョンとなります。特に、参考資料4は本日の議論で参考になるものと考えておりますので、随時ご確認いただければと思います。お送りした資料の内容について、ご不明な点があればお伺いします。特になければ、協議事項に移ります。

ここからの議事、進行につきましては、要綱に基づき、座長にお願いいたします。

(2) 協議事項

「10年後の留萌はどんなまちであってほしいか」という将来像を表す基本テーマ（都市像・ビジョン）について

(谷座長)

議事に移らせていただきます。第2回でございますが、本日から住吉委員に参加いただきまして、市民会議は全員で10名という形で進めていきたいと思っております。

前回、皆さんから様々なフレーズ、キーワード、そして想いをいただきました。私なりに皆さんのキーワードと、そして、笠井副座長、上野委員、大沼委員から「10年後の姿」についてご意見をいただきました。それぞれご意見をいただきましたが、特に私の方で心に残った言葉は「豊かさ」や「若者への投資」、「心も体も健康に」という「留萌の魅力を次の世代へ繋ぐ」という事に趣を置いた言葉がたくさん出ていたと思っております。

本日は2段階で進めたいと思っております。まずは、留萌の10年後を語るとき「どういうまちになってほしいのか」大きな基本テーマ、都市像となります。それぞれ教育や健康などいくつか分野はありますが、それらを貫くテーマとなります。

「みんなでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌」これが前回10年前のテーマです。

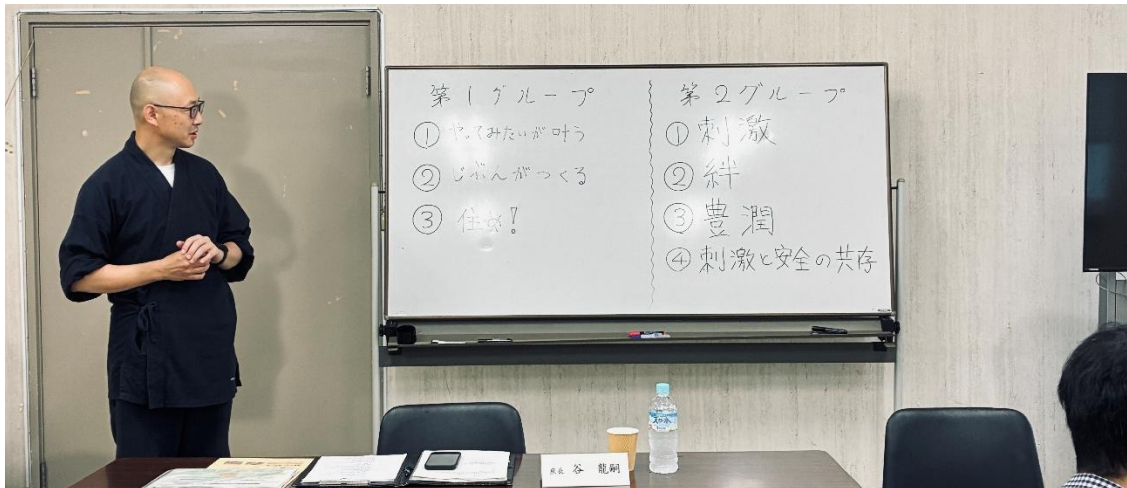
本日は新たなまちの将来像を皆さんと協議したいと思っております。将来像はまとめきれなくても構いませんが、はじめに大切にしたい言葉をいくつかグループ内で出して、その言葉の理由を共有いただきたいと思います。例えば、私であれば、「夢や希望」という言葉に子供たちへの教育といった、その言葉に秘めた想いを、一言でも良いので記載いただければと思います。

次に、その言葉を精査して、文章にしていきたいと思っております。本日で結論は出しませんが、一つ皆さんで将来像について、10年後に向けた文言を出し合い、できれば文章にしていければと思います。仕事、経済、医療や教育という分野ではなく、大きく一つに包括できる言葉で構いません。皆さんと一緒に決めていければと思っております。

本日の協議は2グループに分け、一つは笠井副座長に、もう一つは米倉委員に進行をお願いしたいと思います。グループ内で記録いただける方を決め、進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

③ グループ発表

① 「使いたい言葉」を出し、「なぜその言葉なのか」



(グループ1)

米倉委員、鹿内委員、住吉委員、山際委員

(使いたい言葉と理由)

① やってみたいが叶う、② じぶんがつくる、③ 住め！

(グループ説明)

- ・人口構造の一番下の10代20代という少ない層。いまの小学生が中・高校生までみる総合計画のテーマとしました。私たちのグループは子供たちがメインであり、「自分のやってみたいことがここに居たって叶う」ということを知らせる。都会に行かなくても良い。ここに居たってできるんだよ。それは、みんなが作るのではなくて、誰かが作るのではなくて、「自分が創るんだ」ということ。3つ目の「住め！」は、出ていった人も帰って来ることも含めて「住め！」としました。

(グループ2)

笠井副座長、新谷委員、大沼委員、中出委員

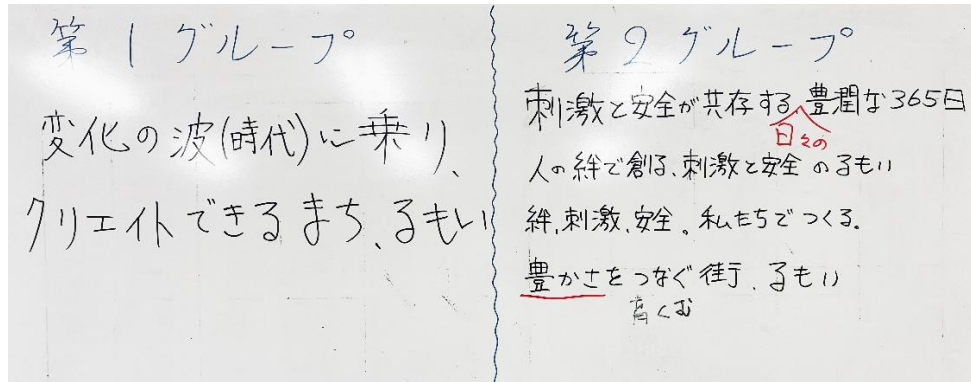
(使いたい言葉と理由)

① 刺激、② 絆、③ 豊潤、④ 刺激と安全の共存

(グループ説明)

- ・はじめに刺激という言葉が出ていますが、4つ目にも刺激と安全の共存という言葉もあり、これは、買い物であったり、スポーツだったり、自分の生活、仕事や学業以外のやりがいや生きがい、余暇を充実させるようなもの、買い物も含め、このまちに求めることとして、その刺激が無くならないでほしいというのが「刺激」という言葉であり、医療や健康であったり、体と自身の安全というのが共存しているまちになってほしいというのが①と④で整理しました。このほか、絆という言葉は、留萌人の人の良さであったり、人が好きだったり、人が暖かいということでここに住んでいるというご老人の言葉からも、みんなが見守っている、見守りあって支えあっているという意味で絆。そして、豊潤という言葉に集約されているのは、豊かで潤いのあるまちであってほしい。仕事であっても生活であっても、自身の健康も心も豊かで潤っていてほしいという思いでこの4つの言葉を選びました。

② その言葉をつないでひとつの文章に



(グループ1) 基本テーマ (都市像)

- ・変化の波 (時代) に乗り、クリエイトできるまち、るもい

(グループ説明)

- ・グループ内で「変化の波 (時代)」という言葉に行きつき、時代と読みますが、波に乗り、「クリエイトできるまち、るもい」ということで、今の社会状況、留萌が海のまちということも含め、荒れた波でも、穏やかな波でも、来た波に乗って、クリエイトは、先ほどのとおり、自分たちで創造する、自分たちで創るんだよ、ということが出来るまちなんだよという思いを込めました。

(グループ2) 基本テーマ (都市像)

- ・刺激と安全が共存する (日々の) 豊潤な 365 日
- ・人の絆で創る、刺激と安全のるもい
- ・絆、刺激、安全。私たちがつくる。
- ・豊さをつなぐ (育む) 街、るもい

(グループ説明)

- ・先ほどの必ず入れたい言葉を基本として、将来の留萌につながるような、また、1 グループにあったようなクリエイトや繋がっていけるような思いを込め、言葉をつなぎました。先ほど挙げなかった言葉も含めてグループとして4つにまとめました。

(谷座長)

ありがとうございます。本日いただいたご意見と記録シートは回収のうえ、事務局と座長、副座長でまとめさせていただき、次回皆さんにお示しできるようにしたいと考えております。当面の開催スケジュールもお配りしておりますので、ご確認の程、よろしくお願いいたします。

(事務局)

谷座長、ありがとうございます。

また、たくさんのご意見をいただき、皆さんありがとうございます。会議結果は事務局で整理のうえ、後日共有させていただきます。座長からもございましたが、本日いただいたご意見につきましては、座長と事務局において整理のうえ、次回第3回目の会議で、基本テーマの候補案、基本理念のたたき台として、お示ししたいと考えてございます。最後に次回につきましては、9月14日(月)または15日(火)の何れかで開催を検討してございますので、後日、メール等で確認させていただきます。

以上を持ちまして、第2回市民会議を終了いたします。